



SUZUKI・Y 250 改・Yajima special

遥かなる青空の彼方に

日本一周 Vol.04

1978年8月11日~1982年8月17日

遥かなる青空の彼方に 其の肆

<http://p.booklog.jp/book/35515>

著者 : lauriercb4004in1

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/lauriercb4004in1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35515>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35515>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

能登・佐渡 編 (1979年 4月29日~5月3日)

全走行経路



全走行距離 1,498.9km・燃費 不明

1979年 4月29日（日） 晴れのち曇り

CB400・FOURの走行距離は、15,008.7kmになり調子はいい！

AM8:30、計画なしの行き当たりバッタリのツーリングへ出発。

浜松I・Cから東名高速道路を走り名神高速道路・彦根I・Cで降りる。

名神高速道路に入ってから、しばらくしてパーキング・エリアで休憩を取った時にGX氏とGL氏の二人と話をする。

彦根I・Cでツーリングをしている人達がいたから挨拶をしたら無視された挨拶くらいしても良いのに挨拶したら返すのが礼儀でしょ！

彦根I・Cから先は、まだ北陸自動車道が開通していないから国道8（中山道）を琵琶湖に沿って敦賀に向かって走るが高見町付近では白バイがやけに多い、同じ国道8だが中山道から塩津街道に名前が変わって敦賀市に入ると今度は敦賀街道に名前が変わる。国道8（敦賀街道）を走り左に日本海が見ながら福井市を目指す所々で渋滞が凄いのので休憩をして自動車の空くのを待ったが全然、数が減らない早目の昼食を食べて適当に時間をつぶす。

渋滞を回避は無理と判断して、すり抜けは出来るだけやりたくないが、この渋滞では仕方が無く自動車の横をすり抜ける。

国道8は、福井市に向かう為、日本海とは別れて内陸部に入り越前市を抜けてた頃には昼はとっくに過ぎていた。

鯖江市に入り予定より渋滞で時間が掛かってしまって今夜の宿を探していると福井市に入る手前の街でビジネス・ホテル「プラザ・ホテル」（¥3,000・素泊まり、夕食なし、朝食あり）を見つけたので泊まる事にした。

ここのフロントの人はチェック・インの時間がまだなのに部屋に通してくれた。

部屋に入るなり、すぐに風呂に入って疲れを癒して夕食を食べにホテルのすぐ横の食堂に行ってきた。

PM7:59、雨が降っている。

全走行距離 295.7km・燃費 21km/ℓ

4月30日（月） 雨のち晴れ

AM6：00頃、起きる。

雨が降っている・・・。

朝食（¥600）を済ませて、オートバイに荷物を取り付けるが、ツーリングも慣れてくると持ってくる荷物が少なくなって出発の時に時間が掛からなく成ってきた。

雨かあ！いつもの事だけど出発からカッパを着て走るのは気持ちが落ち込む。

ホテルのレストランの前にオートバイを停めて在ったので、ガラスの向こうから宿泊客が朝食を食べながら俺を見ている、注目されているとカッコ悪い走り出しは出来ない！

！

今日の目的地は、能登半島の輪島。

まずは、[東尋坊\[Y1\]](#)を目指して出発！国道8から国道416を走り、国道256に出て緩いカーブを曲がると突然、目の前に日本海が見えてきた。

国道256から国道305に入り雨宿りが出来る場所を探し、オートバイを路肩に停めて、しばらく澄んだ海と黄色い砂浜を見ながら休憩！

東尋坊まで、あと少し！

小雨の中を走るが道が狭い！これが本当に国道と思う程の道幅、川根町の大井川の堤防の道に似ている。

[\[Y1\]東尋坊](#)

【世界に3ヶ所、日本では、ここ1ヶ所の巨大な輝石(きせき)安山岩(あんざんがん)の柱状摂理（五角形、六角形の柱状の岩石の集まり）は、地質学的にも貴重】

この細い道で後ろを走っていた自動車（日産・ブルーバードSSS）が突然、俺をアオリ始めた。

雨降りにオートバイをアオル馬鹿はたまにいるが、その挑発に乗ってしまう俺も馬鹿だ！

俺は、そんなにゆっくり走っては、いなかったはず！

しばらく馬鹿に付き合ったが雨で濡れた路面は、重い荷物を積んだオートバイには不利だ、コーナーで後輪が滑り始めたので馬鹿な真似ここで終わり。

道が広くなった場所で、スピードを落すと自動車は俺を抜いて過ぎ去った。

気を取り直して走り続けるとガソリン・スタンド（日本石油）が在ったのでガソリンを

入れる。

スタンドの人に東尋坊までの道を聞くと解りやすく説明してくれて地図まで書いてくれた。

俺は、知らず知らずに何度のお礼を言っていた、馬鹿な競争と雨で気持ちが落ち込んでいた時には心に人の温かみを感じた教えてもらった地図を頼りに走り雨が上がらないまま東尋坊に到着。

東尋坊には、タワーがあって日本海が一望できるようだ。

お土産を買いに行くのに濡れのカッパで店の中に入るのは気が引けたのでカッパを脱いで行く。



(東尋坊の駐車時場)



(雨の東尋坊)

東尋坊を見学して昼飯（親子丼¥500）を食べていると雲の間から日が差し始め晴れ間が見えてきた。（これでカッパを着なくてすむ、一安心）

東尋坊から芝政の横を通り国道305に入り、加賀市を経て金沢市を目指して今夜の宿がある輪島に向かう、金沢市から国道159を走り白尾I・Cから能登海浜有料道路(¥120)に入り、此木I・Cまで一本道で行けるので走るのも楽だ。



(有料道路の領収書)



(能登有料道路の何処か?)

能登海浜有料道路の途中にある千里浜なぎさドライブ・ウエーで降りて、モーゼの墓[Y1][Y2]のある場所、宝達駅(ほうたつ)付近まで行ったが分らず行けなかった。

多分、近くまで来ているのだが案内看板が何処にも無い!

モーゼの墓は、諦めて砂浜を走る事が出来る千里浜なぎさドライブ・ウエーまで戻って休憩をして、千里浜なぎさドライブ・ウエーを少しだけ走ってから能登海浜有料道路に再び乗り輪島を目指す。

能登海浜有料道路の終点・此木I・Cで降りて、国道249に向かい能登金剛・関野鼻まで走る。(見学したが、ただの岩!)

[Y1]モーゼの墓

【石川県羽咋市の宝達駅(ほうたつえき)の近くの宝達山(ほうたつさん)に、モーゼの墓(河原三ツ

子塚古墳群)がある】

【この地の伝説では、日本に着いたモーゼは、五色人(いろひと)の祖神である皇祖皇太神を参拝し、その時の天皇(みこと)の不合朝六十九代神足別豊天皇(あえずちょうだいかんたるわけとよすきみこと)の御代(みよ)に、モーゼは表十戒・裏十戒・真十戒・縞瑪瑙石(おにつくすせき)・魂の形見石の5個を献上する】

【天皇家(みことけ)の大室姫(おおむろひめ)、不合朝六十参代事代国守高彦尊天皇 ((あえずちょうろくじゅうさんだいことしろこくにまもりたかひこのみこと)の皇子、天津高彦尊天皇(ににぎのみこと)の娘と結婚し、3人の子供をもうけ583歳で天寿をまっとうし宝達山の麓、河原三ツ子塚に埋葬された】

【羽咋市付近では、謎の怪光目撃が頻繁にある】

【終戦後、マッカーサーが厚木基地に降り立つと、すぐに元日本海軍の水交社(すいこうしゃ)(海軍士官・幹部関係者、限定の旅館や喫茶店)にフリーメイソン東京ロッジを設置し、マッカーサーは石川県の宝達山に、向かったと言わせている】

【マッカーサーが厚木基地に、降り立つと直ぐにモーゼの墓に、参拝に赴いた事が事実なら、彼はモーゼが日本にやって来て死亡し、この地に宝達山に葬られた伝説を認めた事に……?】

[Y2]五色人(いろびと)

【黄人(ひびと)・日本人(五十五の祖)】

【黄人(きひと)(五十五の人祖より蓄殖(ちくしょく)したもの)中国人、アジアモンゴロイド人】

【赤人(あかびと)・ネイティブアメリカ人、アラビア人、エジプト人、ユダヤ人等に少し見られる】

【青人(あおびと)(肌が青白い、純血種は、ほとんど無し)・北欧人】

【黒人(くろびと)・インドの原住民族やアフリカ人等】

【白人(しろびと)(白い肌やプラチナ、ブロンドの髪)・欧州人のコーカイド】



(能登金剛の看板の前)



(能登金剛)

能登金剛をあとにして、国道249で今夜の宿は輪島市にある民宿「たなか」(夕飯あり、朝食あり)を目指す。

国道249の途中に滝、垂水(たるみ)の滝が在ったので休憩をする。

輪島市に着いて、民宿の場所が分からないので輪島駅まで行き駅前に在った旅行案内所で民宿「たなか」の場所を教えてもらう。

民宿「たなか」の部屋は四畳半で石油ストーブがあるだけ……。

夜は、【輪島本店】と言う場所で御陣乗太鼓(ごじんじょうたいこ)の演奏を見たい人だけを連れて民宿の人が宿泊客を案内してくれた。

テレビで見たことが有るが、本物のお面と太鼓演奏を聴くのは初めて！テレビとは違って生の迫力は違う。

この時期の北陸の夜は寒い！



(垂水の滝)

全走行距離 252.0 km・燃費 不明

5月1日（火） 曇りの雨時々晴れ

朝、輪島の朝市を見に行きつもり、だったが起きることが出来なかった。

朝食を食べ出発！

輪島から国道249で珠州市まで走り、そこからフェリーに乗って佐渡ヶ島に渡る、珠州市のフェリー・ターミナルには一時間掛からずに着いた。

敷地内に入るなり、オートバイでフェリー・ターミナルに向かう地中、数十頭の野犬の群れに遭遇！（俺の乗ったオートバイを追い掛けて来る逃げないと野犬に襲われてしまう！）

何とか野犬の群れを振り切って、ターミナルの中に入り職員に次のフェリーの時間を訪ねると『ここは、ホバー・クラフトで人だけを運ぶ』と言われてしまった。

職員に、カー・フェリーの出ている場所（直江津港）を聞いてターミナルをあとにする。（出る時は右見て、左見て野犬がいらないか確認！！）

珠州市から国道249で直江津港に向かうが距離があり、フェリーの出航時間に間に合うか分からないが、とにかく行ける所まで走るしかない雨は降って止む気配がない黙々、直江津に向けてオートバイを走らせる。

途中【見附島（軍艦島）⇒】の看板を見つけてを見学。

見附島に着く頃には、雨が上がり写真を撮ってお土産を買って出発しようと準備していたらまた雨が降ってきた。

お土産の店先で雨宿りをしていたら、おじさんが『中にはいんなあ』と言ってくれた。（また、別のお土産を買ってしまった）

ここ見附島は、島と言うか岩が軍艦の形に見えるから通称【軍艦島】なるほど！



(見附島)

山間を抜け再び国道249に出ると視界が開け一望に日本海が広がり景色が一変する。

景色の良い場所で休憩をする、これで天気良ければ言う事なし！

雨が止みそうに無いので出発。

国道249から七尾市を抜けて、国道160で海岸線を走り氷見市に向かう。(雨の中走っていると熱い風呂に入りたいと思うだけ・・・)

高岡市から国道8で能登半島を抜ける時に、ハーレー(イージーライダー)と会いしばらく一緒に走り、その後に三河ナンバーの人とも会う。

地元、浜松から離れて見慣れたナンバーを見ると何だか親近感が湧く。

国道8で富山市に入り、県道6で立山の尖山(とんがりやま)[Y1]を目指す。

余り時間が無いので尖山は麓の蔵王神社(ざおうじんじゃ)[Y2]の境内(不思議な形をした石が沢山ある)を見て、木々に覆われているが四角錐の形をした尖山の外観を見る尖山の付近で怪光がたびたび目撃されている。

[Y1]尖山(とんがりやま)

【尖山(とんがりやま)は、標高559mの四角錐の形をした山で、山の北側にはピラミッドの様に石で固められた跡があり、明らかに人口建造物で登山道の道の途中には、ほとんど石が無いのに頂上に着くと不自然な形の石が多くなり、意図的に頂上に石を運んで何らかの祭壇を造った形跡がある。ストーンサークルの下を少し掘った所から、青銅製の鏡が出土している】

[Y2]蔵王神社(ざおうじんじゃ)

【尖山の麓の蔵王神社(ざおうじんじゃ)の境内には、形の不思議な石が置いてあり、しめ縄の張ら

れた祭石が在る】



(蔵王神社)



(蔵王神社の境内)

迷いに迷って、ホテルに着いて中に入ると、オートバイの泊まり客だとは思って、いなかったみたいで少し驚いていた。（オートバイは雨と泥で汚れが凄く、俺もズブ濡れ）

疲れた・・・熱い風呂に入り疲れた体を休める。

全走行距離 344 km・燃費 29 km/l

5月2日（水） 雲のち晴れ

AM7：40、起きる。

ぐっすりと寝る事ができ体力も回復して元気いっぱい！

PM8：00、出発の準備をするが天気は、まだ回復していない。

今日は、国道8で直江津港まで行き、フェリーで佐渡島に渡り見学をしたら直江津に戻って来て諏訪湖までの予定。

ホテルから国道8に出るまで、所々で渋滞にハマり余分な時間を費やしてしまった。

フェリーの時間は昨日、調べて時間に余裕を持っていたが渋滞にハマってしまい出港前40分に着いてしまった。

手続きを済ませて乗り入れ駐車場にオートバイを置きに行く直江津から佐渡島まで1時間40分。

まだ、時間があるから少し早い昼食を食べ地図を広げて佐渡ヶ島の行動予定を立てる。

（船の中と言えば釣り竿を持った釣りをする人でいっぱいダ！）

PM12：00過ぎに小林港に到着。

オートバイを船から降ろして佐渡島に上陸。

国道350を走り、県道45から県道31で佐渡金山跡を目指して出発。



（佐渡島が見えてきた）

佐渡金山に行く途中で何枚も写真を撮り、オートバイを停めた時に立コケをしてしまった。



(立ちごけする前・・・)

エキパイがヘンダ写真を撮ったが後で、写真を見ても何の写真だか分からないだろうなあ。

走りながら思ったのだが、この道は能登半島の風景の道に似ている。(同じ厳しい風土で出来た地形だから似ていても当たり前かあ)

佐渡金山に行く道で、すれ違う自動車に合わない。

PM2:00前には、佐渡金山跡に着いて金鉱跡を見学、洞窟の中に動く人形が置いてあって江戸時代の金の堀だし方が解る様になっている。



(佐渡金山のパンフレット)



(入場券の半券)



(佐渡島金山跡の駐車場)

売店でブラブラして気に入った、お土産（小判のレプリカ）を買って小林港を目指して佐渡金山跡をあとにする。

佐渡島を一周して小林港に行こうと思い県道45を北上する。（途中でツーリングをしている二人を見たのと、ここで地元の遠鉄観光バスが走っていたのは驚いた）

県道45を海岸線沿いに走り、途中からフェリーの時間に間に合うかどうか分からなく成ってきたので、県道81で内陸部に入ってショート・カットをして反対側の両津港に行くつもりで走っていると行き成り砂利道の坂道の急こう配に変わる。



(佐渡島が一望！眺めは良いが・・・この後、悪路が始まる・・・)

カーブが多いなり、アクセルを開けると砂利にタイヤを取られて横滑りをする、怖かった悪路に苦戦！フェリー乗り場に到着して時刻表を見ると、なんと最終便が出た後だった。

来た道に戻ってフェリー乗り場に向かっていけば、間に合ったかも！予定が半日ずれてしまった。

仕方が無い、今夜の宿はフェリー乗り場の前ビジネス・ホテル「佐渡プラザ・ホテル」(¥3,000)

記号説明	数量	料金	記号
PS人 数			
01室 料	1	4,111	3
03床 料			
03席 料(税込)		617	1SC
04日 本 酒		272	1TX
05ビ ル		5,000	ST
06ジ ュース機		5,000	TT
07送 迎 料		5,000	GT
08送 迎 料		5,000	GT
09送 迎 料			
10マシソン等			
11たばこ代			
12電 話 代			
13送 迎 代			
14お け ぎ 券			
15そ の 他 代			
16送 迎 代			
ST小 計			
TT合 計			
QT(前請求金額)			
TS(前請求)			
T+ (前請求)			
CP(前請求)			
1SC(前請求)			
2SC(前請求)			
1TX(前請求)			
2TX(前請求)			
##訂正			

領 取 書
 御芳名 柳井浩一 様 (名姓)
 室 名 201 号室
 予約金 3,000 円也
 No. 001351 日付 00-34-32
 佐渡プラザホテル PAID 領取
 52,418
 佐渡プラザホテル
 TEL 025986-3145(0)

(ホテルノ領収書)

明日は、朝一番でフェリーに乗って直江津まで渡り一気に浜松まで走る。

明日から浜松祭りが始まる！何としても浜松に帰らないと！

本州を縦に横断の強行走行をする事にした、直江津から浜松まで約500kmを一気に

走り切る。

明日に備えて早めに寝るので、風呂に入って今日の反省をしてビールを飲んで寝る。

全走行距離 141.7 km・燃費 不明

5月3日（火） 晴れ

朝、ホテルのモーニング・コールで起きる。

AM6：20の朝、一番のフェリーに乗るには朝飯を食べている時間は無い。

急いで準備をしたが手間が掛かってしまい乗船手続きを終わった頃には出港10分前！係りの人が待っていてくれて何とか間に合った、もう少しで乗り遅れる所だった。

AM8：00に直江津に着く港には、3人のライダーがフェリーに乗るために待機していた。

さあ！本州を縦に横断、約500kmだあ！長野市に向かう為、国道18で南下し浜松に向け出発！

国道18を南下していると妙高山が見えていて景色の良い場所で休憩を兼ねて妙高山の景気をバックに写真を撮る。

途中、野尻湖でまた休憩、野尻湖は、ナンマン像の化石が発掘されて有名だが、地元でも浜名湖の湖畔・佐浜町でナンマン像[Y1]の歯が大正時代に発見されている。

長野市に入ると、ネズミ捕りをやっていたアブナイ！アブナイ！ペースを落として走る。

[Y1]ナンマン像

【1921年（大正10年）、浜名湖北岸、遠江国敷(とうとうみのくにしき)知(ち)郡(ぐん)伊佐(いさ)見(み)村(むら)佐(さ)濱(はま)（現在の静岡県浜松市の佐浜）の工事現場で牙、臼歯、下顎骨の化石が発見されている】

【野尻湖の湖畔から旧石器時代の石器や骨器が見つかっており、ナンマン像は当時の人類の狩猟の対象であったと考えられる】

【大型動物の歯や骨の化石は龍骨（竜骨）と呼ばれて、古くから鎮静薬・収斂薬(しゅうれんやく)などに用いられていた。正倉院には「五色龍齒(ごしきりゅうし)」と呼ばれてナンマン像の臼歯の化石が宝物として保存されている】

【収斂(しゅうれん)は、タンパク質を変性させる事により組織や血管を締める作用がある。収斂の持つ物質には止血・鎮痛・防腐などの効果があり化粧品や医療品として用いられている】



(妙高山)



(野尻湖湖畔)

長野市まで来たので【善光寺】に寄って行こうと思い寄り道をする、今年は七年に一度の御開帳の年。

善光寺の近くまで行ったら渋滞でオートバイでも身動きが出来なくなってしまった。何とか、オートバイを停める事が出来る駐車場(¥100)を見つけ善光寺の境内を見学、境内の中も人で凄い、お土産を買ってサッサと人混みと渋滞を脱出！

No 009953

車と車引換料を並行の都合当車
籍間は其の責任を負いません。

御 駐 車 券		車 輛 ハイブリッド 番 号
(この券引換に料金をいただきます。)		
入庫時間	54-5-3 11-43	ご注意事項
出庫時間	前金	
駐車時間	時間	
泊駐車		<ol style="list-style-type: none"> 1 料金の精算は2時間単位で精算いたします。 2 車を預け入れる場合は必ず錠を掛けて下さい。錠を掛けなかった為に生じた損害に対しては当事務局は其の責任を負いません。 3 時間外は当職員が不在になりますので、時間厳守の上お帰り下さい。
料 金	100円	
無料駐車印		
善光寺事務局 TEL 04 3591		



(善光寺の駐車券・案内図)

遠くとも
一度は詣れ
善光寺
救い給うぞ
弥陀の誓願

七年に一度の盛儀
善光寺御開帳

信州善光寺は創建以来約千四百年の長きにわたり、民衆の心よりどころとして広く深い信仰を集める聖場です。

善光寺御開帳は数え年で七年に一度、絶対秘仏である御本尊一光三尊阿彌陀如来と同じお姿の前立御本尊をお参りいただく盛儀です。御開帳の間、本堂前に建立される大回向柱は前立御本尊の右の御手と善の綱によって結ばれ、柱に触れることで御本尊に触れるのと同じ功德が得られると信じられています。

本品は小さいお札と同様の大きさです。お仏壇などにそのまま飾りいただけます。また長野市内の参加店にて共通商品券(1,000円)としてもご利用いただけます。(有効期限:平成21年6月30日)

善光寺御開帳奉賛会
長野商工会議所
長野商店会連合会

1,300円

(当時の物が紛失してしまい代わりに平成21年の御開帳記念品)



(善光寺)

善光寺をあとにして、ひたすら国道18を南下し、国道141（佐久甲州街道）に入り、しばらく走ると【国鉄・線路が最高地点⇒】の看板を見つけて休憩。

写真を撮って高原の中の最高地点の線路をまたいで雰囲気にしたる・・・。

近くの売店に寄ってお土産を物色する。

最高地点をあとにして、国道141を清里に向かって県道32から県道17を通り国道20で茅野市に向かい、さらに国道152で南下し国道361で伊那市に入る。



(国鉄最高地点の碑と撮影時に入り込んできた中年夫婦の観光客)

国道19（木曾路）に入る前に、伊那市内で昼食をと思い、ラーメン屋を見つけたのでスピードを落とし駐車場に入って横を見たら、ネズミ捕りをやっていた、あのままのスピードで走っていたら、捕まっていたらろう！

時間が無いのでラーメンを早く食べて、出発しようと思っていたのに店の客に、ツーリングの話をする羽目になってしまった。

『これから浜松まで、帰らなければ行けないので！』と言って話を早々に切り上げてラーメン屋を出て出発。

伊那市から国道361で国道19（中山道）に入ると、ペースが上がる。

国道19（中山道）は、整備された道幅が広く信号機が、ほとんど無く走りやすい。

皐月（さつき）晴れの空に右手には木曾川、正面と左手には山の新緑、景色が良い所だ。

国道19は、ある一定の距離にフクロウの看板が設置されていて看板のフクロウの目が左右交互に光り居眠り防止の警報音が鳴っている。（音量が大きい！）

善光寺での渋滞とラーメン屋で時間を無駄にしまいペースは上がるが、まだ浜松ま

での距離の半分しか来ていない。

このままだと浜松に着くのが深夜になってしまうので、中央高速道路を使う事にした。中央高速道路が全線開通していれば、こんなに時間が掛からないのに！全線開通は、まだ10年は掛かる様だ・・・。

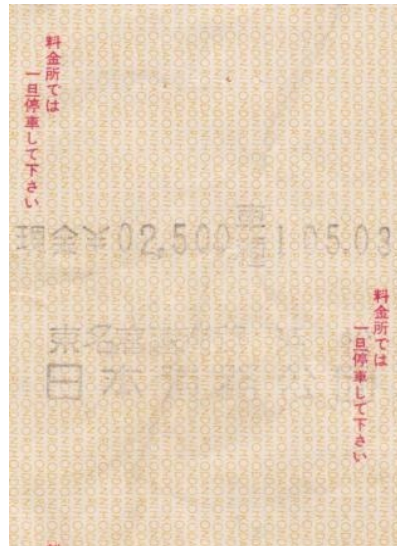
国道19から多治見市に向かい、多治見I・Cから中央高速道路に入った頃には日が傾いてた高速道路では、日が落ちて暗く成ってくるとトラックが増えてくる。

遅いスピードでは、走っている訳では無いのにトラックが追い越し車線を走って俺を抜いて行くたびに、オートバイが吸い寄せられる。（夜の高速道路は、トラックが多くて怖い！）

夜だとかなり怖い！遅い自動車を見つけては、スピードを合わせ後ろに付いてトラックにアオラレない様にして走る。

休憩を多めに取って、集中力を高めながら暗くなった中央高速道路と東名高速道路と走り続けて何とか浜松I・Cに到着。

PM8:00、家につく疲れた・・・。



(高速道路の領収書)

全走行距離 464.9 km・燃費 30 km/l